

# 音楽科学習指導案

広島市立〇〇中学校  
指導者 〇〇 〇〇

1 日 時 平成26年12月〇日

2 場 所 広島市立〇〇中学校 音楽室

3 学 級 3年〇組

4 題 材 名 表現・創作「作曲にチャレンジしよう」  
使用教材 『日本の歌』 長井桃子 作曲  
『カノン』 パッヘルベル作曲

- 5 題材の目標
- 音をさがしたり、選んだりしながら音を組み合わせる能力を育てる。
  - 音楽の諸要素に着目し、それらを活用して音楽をつくる能力を育てる。
  - 音を音楽へとつくりあげることを通して、音楽に積極的にかかわる態度と音楽をつくる喜びを味わう。
  - 創作ではぐくまれた能力を歌唱や器楽・鑑賞でも活用する能力を育てる。

- 6 題材で扱う指導事項 (学習指導要領との関わり)
- 【A 表現：創作】
- ア. 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。
- イ. 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復・変化・対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。
- 〔共通事項〕 リズム、速度、旋律、強弱、構成、テクスチャ

## 7 題材について

### (1) 題材設定の理由

学習指導要領では、各学年の内容の連続性を配慮し、歌唱・器楽・創作・鑑賞の分野ごとに指導内容が示されており、これまで以上に創作活動が重視されている。また創作分野の改善の具体的な事項に「創作の指導については、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視する」よう配慮することが新たに示されている。

そこで、今年度は年間全ての題材を通して「音を音楽へと構成していく体験」を行うために、創作活動を行うための基礎的な力を、共通事項を軸にしながら、ワークシートを作成し、入門編と実践編に分け、入門編は作曲に必要な基礎的な事項に触れ、実践編ではパッヘルベルの「カノン」のコード進行に着目し、C→G→Am→Em→F→C→F→Gの進行をベースに、簡単な和声・リズムを使って身近な歌謡曲の旋律を参考にしながらメロディー作りをする事とした。

これにより創作に対する興味・関心の向上ならびに記譜力や読譜力などの基礎的な理解と技能を身につけさせると同時に、それらが持つ働きによる特質や雰囲気を知覚・感受して、自分の思いや意図を持って表現しながら達成感を味わう活動を通して、思考力・判断力・表現力を高め、さらに他者の意図に共感できるコミュニケーション能力を身につけさせ、歌唱・器楽・鑑賞の他領域にそれら学んだ要素を生かしながら、自身の音楽活動に対する受動的な姿勢から、主体的な姿勢への変換を図りたいと考えたため。

## (2) 生徒の実態

基本的に課題に対して一生懸命取り組む生徒が多い。全体的に他者とのコミュニケーションがあまり得意ではなく、前向きに集団での活動に対して取り組むことができず、1年次は、歌唱・器楽などの表現活動に対して抵抗感を持つ生徒が多かった。しかしそれらの活動に多くの時間を割いて継続的に扱うことにより、2年になり、意欲面や技能面で少しずつ向上がみられる生徒が増えてきたが創作を扱う学習活動に関しては1年次に打楽器を中心にリズム創作し、それを合わせてリズムアンサンブルを行い、意欲的に学習活動に参加する生徒が多かったが、記譜や読譜に対して苦手意識が強い生徒が多く、積極的に音楽の諸要素、また音楽のよさや美しさを感じ取ろうとする力はまだ十分に身につけていない傾向にあると考えられる。

本題材を通してそれらの課題の解決に向けて取り組むとともに、聴覚的な要素のほかに、楽譜という視覚的な要素からもアプローチを図り、音楽に親しむ環境や資質を身に付けさせていきたいと考えている。

## (3) 指導の構想

今回はアルトリコーダーを用いて創作分野の中の「旋律づくり」に取り組むが、指導にあたっては、旋律の要素であるリズム・音程を理論的に教えるのではなく、言葉あそびやまね吹き（模倣）の中から旋律の要素を意識・理解させ、即興的に短い旋律をつくって試行錯誤させることから構成感のある音楽をつくる型を学ばせたい。さらに、音域を広げたり、音符・休符の数を増やしたりして旋律をつくる条件を変えていくことで、より音楽的な表現が可能な状態に近づけていけるようにしたい。そして、自分達がよいと評価した旋律についてその理由を考えさせ、音楽的な旋律をつくるためにはどのように創作することが必要なかを気付かせ、学ばせていきたい。

また、「作る」活動の後には「演奏する」という活動になるが、個人での練習だけでなく、他人と「合わせる」「聴く」という営みの中で、自分の主観だけでなく、他者とのかかわりの中で表現するという活動を通して、音楽の諸要素の働きを感じ取らせていきたい。音符や休符の意味、表記の仕方についても学習しなければならないが、知識的な側面だけにとらわれることのないように配慮し、音楽に関心を持ち、音楽を愛好していこうとする基本的な姿勢をもたせていきたいと考えている。

## 8 題材の評価の規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能
題材の評価規準	「リズム」「旋律」などの音楽を形づくっている要素とその働きに関心を持ち、思いや意図を持ち、表現を工夫して音楽をつくる学習に主体的に取り組んでいる。	「リズム」「旋律」などの音楽を形づくっている要素とその働きを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら音楽表現を工夫し、どのような旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	「リズム」「旋律」などの音楽を形づくっている要素とその働きを生かして、自分の思いや意図を持った音楽をつくるために必要な技能を身につけている。
学習活動の具体的な評価規準	①リズム模倣や旋律模倣、創作表現をすることに意欲的である。 ②自分と他者の作品の特徴の違いに関心をもち、自身の作品づくりや表現に取り入れようとしている。	①音楽の諸要素の特徴を知覚し、それらの働きを感じとって旋律をつくっている。 ②感じとった音楽の諸要素の特徴を発展的に関わらせてその曲想から感じとりながら表現を工夫している。	①音楽の諸要素の働きを生かして自分の思いや意図と関わらせて旋律をつくって表現している。 ②限定された音楽の諸要素を使用して旋律を正確に音符で五線譜に記譜する技能を身につけている。

## 9 題材の指導と評価の計画（全8時間）

次	○ねらい ・学習内容	学習活動の具体的な評価規準 及び評価の方法 ※〈 〉は評価方法、ワークシートは すべて3—②を含む	
第1次 (4時間)	○創作活動に必要なための基礎的な知識や技能を習得し、それらを用いて短い旋律創作をする。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本の歌」を歌う。そして短いフレーズの聴音やリズム聴音を行う。それらの活動を通して今後の創作活動に必要な音楽の構造的な要素（反復・変化など）について知覚し、その諸要素の働きについて感受させる。〈第1時〉</li> <li>・「日本の歌」から感じとった構造的側面を生かしながら、<b>限定されたリズム、音を使用して簡単な旋律を創作する。〈第2時 本時〉</b></li> <li>・簡単なコード進行の上に簡単なリズムで和声音のみ使用して旋律を創作して試す。そしてさらに音域を広げ今まで学んだ要素を生かしながら自分の思いや意図と関わらせて創作する。</li> <li>・中間発表する。その発表を通して意見を交流しあい、他者の創作を参考にしたり、自己の作品を見直す。</li> </ul>	1—①  2—①  3—①  1—②	〈観察〉 〈ワークシート〉入門編 ウォームアップ No.1  〈ワークシート〉No.2  〈ワークシート〉No.3  〈ワークシート〉No.4
第2次 (4時間)	○カノンコードを基として、音のつながり方を試しながら音楽を形づくっている要素の働きや特徴を生かしながら旋律をつくり、自分の思いや意図を持って表現を工夫する。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何も必要な記号がついてない曲に、これまで学んだ要素に続けてさらに速度、演奏上の記号など発展的に関わらせてその曲想から題名を考え表現を工夫する。</li> <li>・カノンコードを基に和声音、そして音域を限定して旋律づくりをしながらイメージを持つ。</li> <li>・さらに音階などを使用して、音域を広げこれまで学習した音楽的な諸要素を用い、自分の思いや意図と関わらせて一つに作品としてまとめる。</li> <li>・発表を通して自分のグループと他のグループの作品の特徴の違いを考察する。</li> </ul>	2—②  2—①  2—①  3—□ 1—②	〈ワークシート〉実践編 No.1  〈ワークシート〉No.2  〈ワークシート〉No.4  〈ワークシート〉No.5 〈音楽自己評価カード〉

## 10 本時の目標

『日本の歌』から感じとった構造的側面を生かして表現し、それらを活用して簡単な旋律を創作する。

## 11 本時の流れ

	○学習内容 ・学習活動	◇指導上の留意点	評価の方法 (観点)
導 入	○発声練習 ・創作活動を意識した発声練習  ○前時の復習 ・既習曲「日本の歌」を歌いながら既習事項を確認する。	◇普段の授業と同じような発声練習をしながらなるべく創作につながるような言葉かけを心がける。 ◇構造的側面に触れ、そこから生み出す特質を考え、思いや意図がもてるように生徒から出てくる言葉をつながけながら表現につなげていく。	1-① 〈観察〉
展 開	○創作の為のウォーミングアップ ・リズム模倣や旋律模倣  ○旋律を創作する。 ・各自ワークシート No.2 に記入して旋律を創作する。 ・グループ内で創作した旋律を聴き合う。  ○③の課題を数名発表する。	◇普段の授業で扱うような簡単なリズム、簡単な指使いの音のみのアルトリコーダーで行う。 ◇声かけを進めながら行い、途中で、創作が進んでいる生徒を中心に取り上げ、他の生徒への参考とする。 ◇グループに分かれて行うなどしながら協同的な学びをしていく。 ◇板書した曲を全員で吹いてみて音楽的諸要素など確認しながら検証しながら価値づけできるように考えワークシートに記入する。	1-① 〈観察〉  3-② 〈ワークシート〉  3-② 〈ワークシート〉
ま と め	○自己評価カードに記入して次時の活動の紹介をする。		